

みやざきかいがん み せいぶつ
宮崎海岸で見られる生物



コアジサシ



アカウミガメ



ハマゴウ



グンバイヒルガオ

このパンフレットに関するご意見、お問い合わせはこちらまで

国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

海岸課

住所 〒880-8523
宮崎市大工 2-39
TEL 0985-24-8221 (代)
FAX 0985-24-8506



宮崎海岸出張所

住所 〒880-0211
宮崎市佐土原町下田島 9515-6
TEL 0985-62-7050
FAX 0985-62-7051



ホームページ (宮崎海岸 Publication)

<http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/> 宮崎海岸 Publication

宮崎海岸HP

検索

平成 24 年 10 月版

みやざきかいがん しんしょくたいさく
宮崎海岸の侵食対策

な た けい い
～ 成り立ちと経緯 ～



しょうわ ねん
昭和 41 年
ねん
(1966 年)



しょうわ ねん
昭和 60 年
ねん
(1985 年)



やく ねんご
約 20 年後



へいせい ねん がつ にちさつえい
平成 23 年 7 月 14 日 撮影

たいふうご
台風後



へいせい ねん がつ にちさつえい
平成 23 年 9 月 4 日 撮影



へいせい ねん
平成 20 年
ねん
(2008 年)

国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

はじめに

宮崎海岸では、この数十年で海岸の侵食が進み、海岸背後地の人々の安全が脅かされています。

「宮崎海岸の侵食対策」は、その海岸背後地の人々の安全・安心を確保するとともに、国土を保全することを目的に、事業主体・市民・専門家の三者が連携しながら一体となって考えていくことを示す「宮崎海岸トライアングル」と、対策の効果を確認しながら着実に事業を進めていくことを示す「宮崎海岸ステップアップサイクル」を2本の柱として、国土交通省が実施する“プロジェクト”です。

本侵食対策は、市民からのさまざまな意見と、各種調査・検討から得られた技術的な裏付けの両方を踏まえ「宮崎海岸トライアングル」で積み上げられてきた計画であり、平成23年12月に開催された第10回宮崎海岸侵食対策検討委員会において「今後も、トライアングル、ステップアップの場を継続すること」等を条件として了承されました。

それを受け、宮崎海岸の侵食対策は「対策の検討・計画」を経て「対策の実施と効果検証」のステップが実施されています。



目次

- ・ 宮崎海岸はこんなところです 1
- ・ 砂浜がなくなってきています 3
- ・ このまま放っておくと大変です 5
- ・ 砂はなぜなくなったの？ なくなった砂はどこにいったの？ 7
- ・ なくなった砂浜を回復するために考えられることは？ 9
- ・ なくなった砂浜を回復するため、いろいろな人の思いがあります 9
- ・ いろいろな人の思いや技術的な検討の結果を踏まえ、
砂浜を回復するための対策をみんなで考えました 11
- ・ 対策を実施し、その効果や影響を確かめつつ、
修正・改善、工夫を行いながら砂浜の回復を目指します 13
- ・ 対策の進め方 ～みんなで協力し、海の中の様子を見ながら進めます～ 15
- ・ 宮崎海岸のこれまでの取り組み（宮崎海岸トライアングルが積み上げてきたもの） 17
- ・ 宮崎海岸のこれまでの取り組み（市民とのあゆみ） 19



本パンフレットは、左ページに「入門編」として小学校高学年が理解できるような平易な内容を掲載し、その右ページに「もっと詳しく」として詳細な説明を掲載する2段構成で作成しています。

みやざきかいがん

宮崎海岸はこんなところです

- みやざきかいがん
・宮崎海岸は、宮崎港と一ツ瀬川の間にある砂浜海岸です
- アカウミガメやコアシサシなどの貴重な野生生物を含め、たくさんの動植物がいます
- ぎょぎょう
・漁業やサーフィン、釣り、散歩などの利用も多くみられます



ぎょぎょう
漁業



サーフィン



宮崎海岸の特徴

宮崎海岸の中でも地区ごとに特徴があります



<凡例> — :一ツ葉有料道路, — :既存の海岸施設(護岸, 離岸堤)

	大炊田地区	石崎浜地区	住吉地区
海岸背後	海岸付近に砂丘があり、砂丘背後の低地には人家等が分布	規模の大きな砂丘があり、砂丘背後の低地には人家等が分布	沿岸を一ツ葉有料道路が走る
既存施設	一部区間に護岸設置	一部区間に護岸設置	北側を除くほぼ全区間に護岸設置 南側区間に離岸堤設置
砂浜の状況	一部区間で砂浜は消失	全区間で砂浜は存在	北側を除く大部分の区間で砂浜はほぼ消失
環境	アカウミガメ、コアシサシ等が生息 ハマヒルガオ、ケカモノハシ等を中心とした砂浜植生帯を形成		
利用状況	漁業、サーフィン、釣り、散歩、野鳥観察、サイクリング、採貝、スキムボード、モーターパラグライダー、トレーニングなど、海域から陸域にかけて多様な利用		



●利用面の特徴

- ◇機船船曳網(バッチ網)によるチリメン漁をはじめ、小型底曳網、ひき縄、一本釣りなどの漁場になっています。
- ◇宮崎海岸を含む周辺の海岸は、国内屈指のサーフスポットとして、県外からも多くのサーファーが訪れています。

●環境面の特徴

- ◇白砂青松の砂浜海岸であり、良好な海岸景観を有しています。
- ◇県の天然記念物であるアカウミガメの上陸・産卵、野生絶滅の危険性が高いコアシサシ(県レッドリスト:絶滅危惧 IB 類)の集団営巣が特徴として挙げられます。これらの保護活動もさかんです。

すなはま 砂浜がなくなってきました

むかし ひろ すなはま うんどうかい
昔はこんなに広い砂浜でした ~運動会やソフトボールもできていた、自然の砂浜でした



ひろ すなはま なみ くだ ちから よわ こうか
・広い砂浜は、波を砕き力を弱める効果があります



やく ねん 約20年 けい 経過
すなはま
砂浜がせまくなりはじめました



- ・ 昔に比べ砂浜がせまくなり、一ツ葉有料道路やパーキングエリア(レストハウス)に波が届きやすくなったため、それらを守るためにコンクリートの護岸がつくられました
- ・ 護岸のないところでは、砂丘が削られ浜崖ができるようになりました



いま、ここにはコンクリートの護岸がつくられています

やく ねん 約20年 けい 経過
すなはま
いまでは砂浜がなくなってきました！

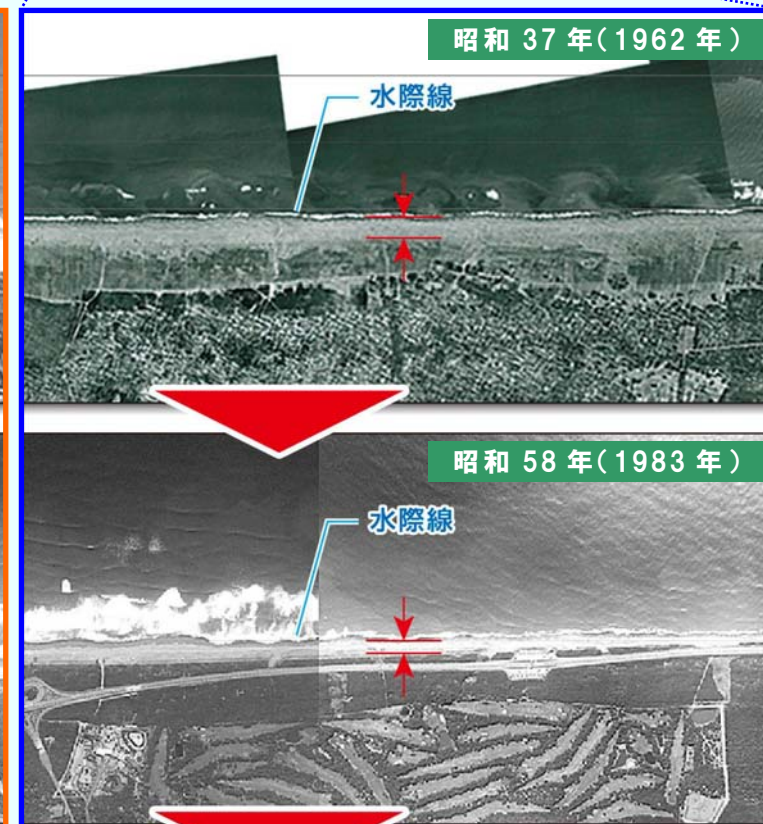
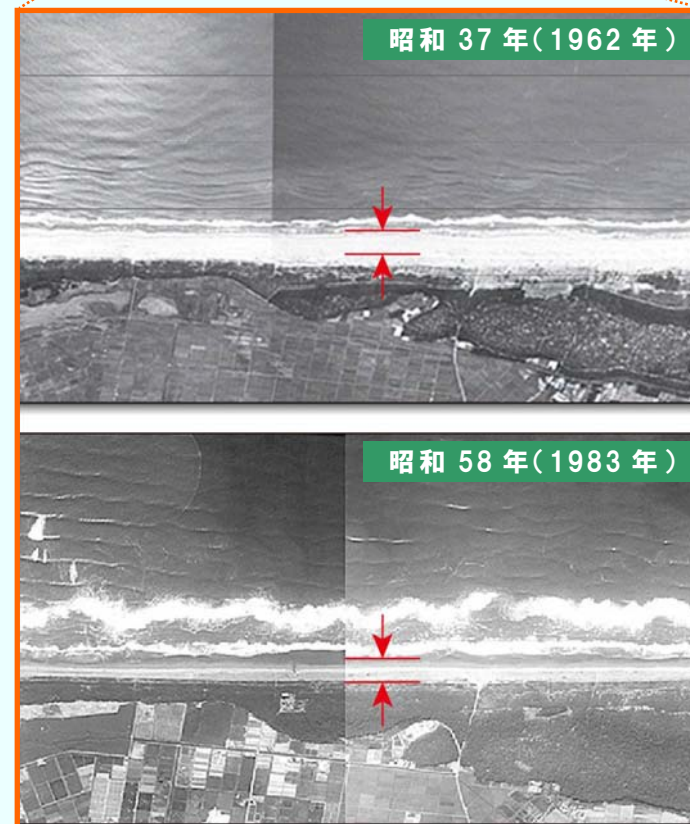
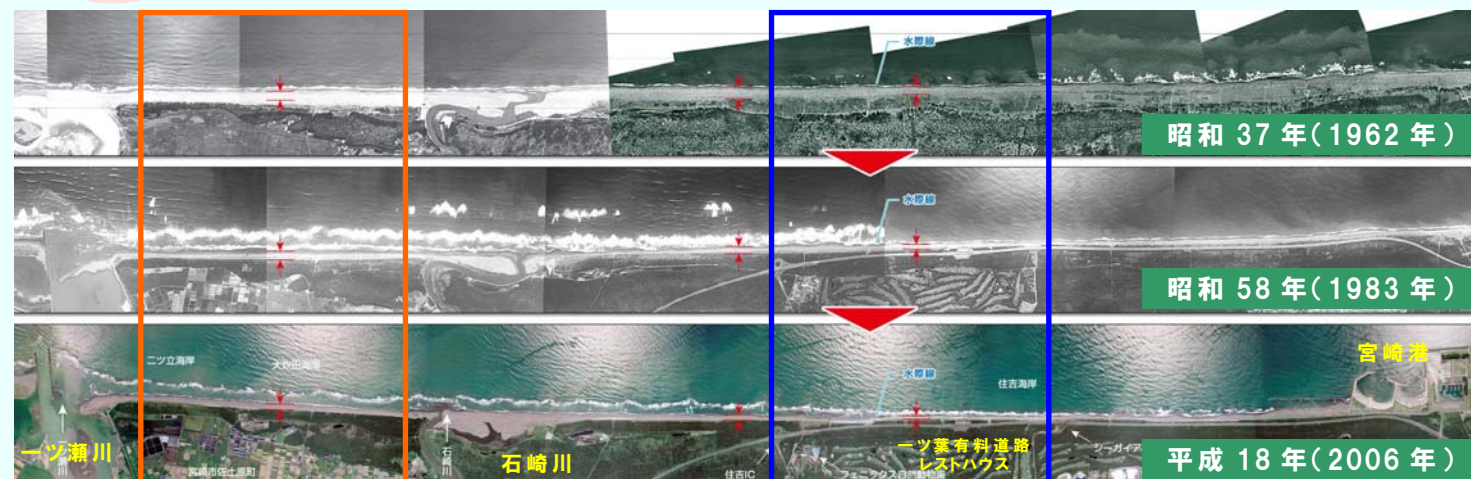


- ・ いまでは、砂浜がなくなった場所もあります
- ・ 護岸の前面から砂がなくなると、コンクリートでできた護岸とはいえ、波の力でこわれてしまうこともあります



長期的な地形変化 ~空中写真の比較

3枚の写真を見比べると、同じ場所でも時間とともに砂浜の幅が減少しているのがわかります



このまま放っておくと大変です

砂浜がなくなると何が問題なの？

- ・砂浜がなくなると波が高くなって、砂丘がくずれたり、護岸がこわれたりします
- ・そうすると、波が砂丘（自然の堤防）を越えやすくなって、家やまちに海水が流れ込んで浸水し、人の命や財産が危険にさらされます



砂浜がなくなった場所では波が護岸を越えることもあります



※波がどのくらい越えているか参考までに人の大きさを入れてます

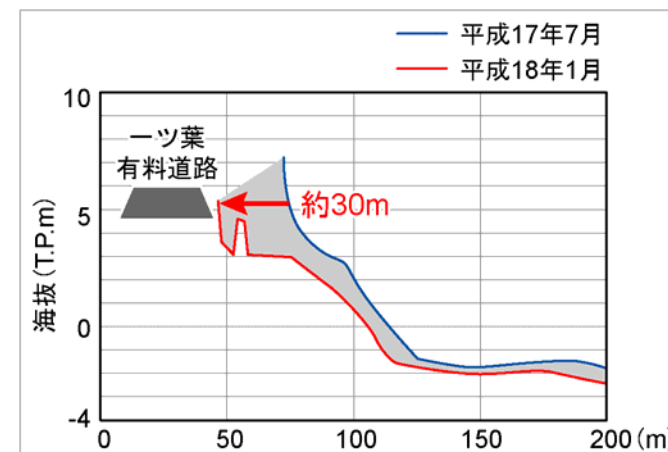
いまでもこんなことが起こっています ～台風により砂丘が削られた状況



短期的な地形変化 ～台風などの高波による地形変化

台風などの高波により短期的な地形変化が起こっています

住吉海岸 平成17年災害【台風14号】



大炊田海岸 平成23年【台風6号,12号,15号通過後の浜崖位置の変化】



コラム 宮崎海岸侵食対策検討委員会、宮崎海岸市民談義所とは？

●宮崎海岸侵食対策検討委員会

侵食対策の効果・影響等を把握し、計画の妥当性について検証するとともに、必要に応じて計画の修正、改善等について検討することを目的に、海岸工学の専門家や地元代表、関係行政機関などからなる委員会を開催しています。

また、海岸の専門技術的な内容については、委員会から同技術分科会に付託され、検討が進められています。

さらに、対策の効果・影響の検討については、委員会から同効果検証分科会に付託され、調査実施計画の策定や調査結果の分析・評価等が進められています。



●宮崎海岸市民談義所

「市民談義所」は、宮崎海岸をどのように未来に引き継いでいくのかをみんなで考え、みんなで談義する場として開催しています。

お互いを理解・尊重しながら、多様な意見を出し合い議論を深めることを目的に、市民がお互いに納得できる、手段を含めた方向性を見いだせるよう、談義が進められています。

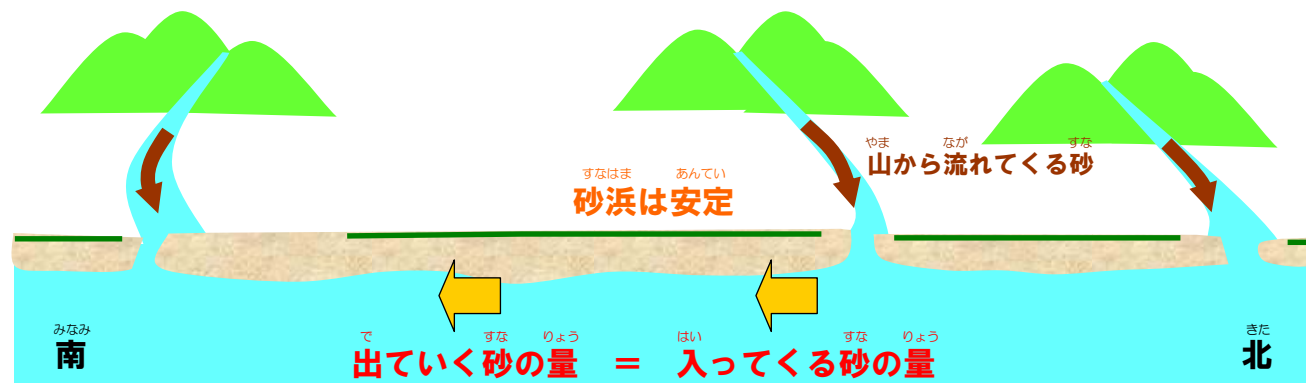


砂はなぜなくなったの？ なくなった砂はどこにいったの？

- ・波の力を弱めることができる砂浜が、なぜなくなったのか調べました
- ・砂は主に山・川から流れてきますが、宮崎海岸に入ってくる砂の量と宮崎海岸から出ていく砂の量のバランスがくずれていることがわかりました

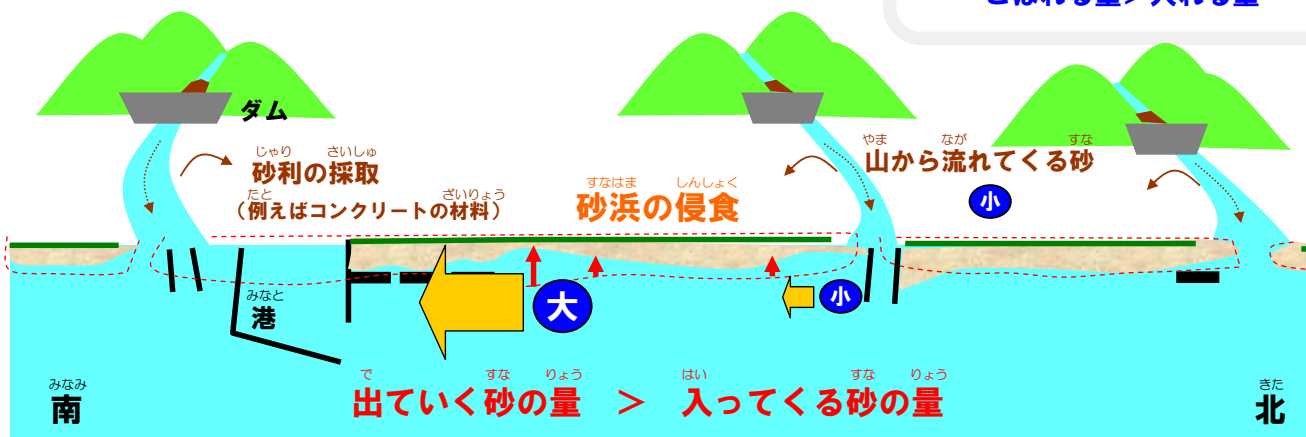
自然の状態の海岸

- ◇宮崎海岸に入ってくる砂の量と宮崎海岸から出ていく砂の量が釣りあっています
- ◇そのため、海の中の砂の量はバランスがとれており、砂浜も安定しています



侵食が進んできた海岸

- ◇宮崎海岸に入ってくる砂の量と宮崎海岸から出ていく砂の量のバランスがくずれてきました
- ◇その結果、海の中の砂が減ってきて、砂浜がなくなりました



宮崎海岸の地形変化の実態と要因

長期的な地形変化、短期的な地形変化

<長期的な地形変化>

▼どのような現象が発生しているのか？

- 宮崎海岸の土砂が消失
 - ・一ツ瀬川～住吉海岸で約 25 万 m³/年の土砂が消失
 - 宮崎港周辺に土砂が堆積
 - ・宮崎港周辺で約 22 万 m³/年の土砂が堆積
- ※南北両方向への土砂移動があるが、通年では南向きの移動が卓越

▼なぜ発生したのか？

- 一ツ瀬川河口以北からの南向きの漂砂が減少したためと推定
 - ・ダム、導流堤の影響等
- 港湾区域境界付近での南向きの漂砂が増加したためと推定
 - ・防波堤の影響等

<短期的な地形変化>

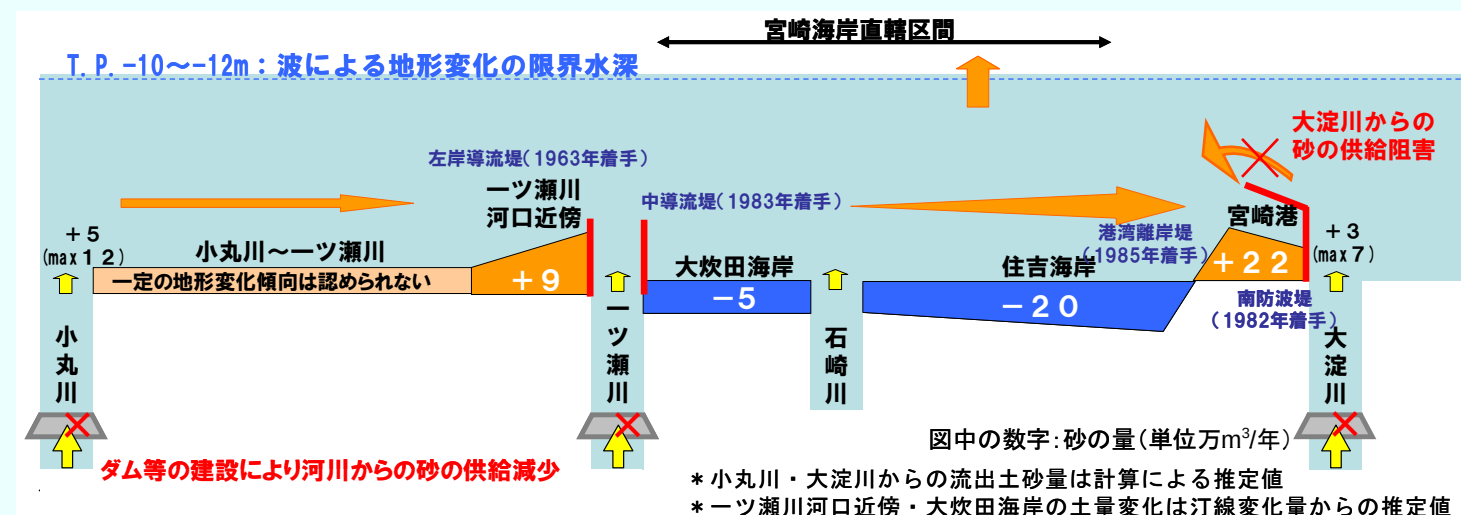
▼どのような現象が発生しているのか？

- 自然浜区間において、高波来襲時に、砂丘が削られ、浜崖頂部高が低下
 - ・1度の被災で浜崖頂部が最大約 30m 後退

▼なぜ発生したのか？

- 砂浜が減少した結果、浜崖の基部に波が当たるようになり、基部が削れることで頂部が崩落するため

▼長期的な地形変化(土砂収支の推定図)



▼短期的な地形変化

5 ページに示すように、砂丘が削られることで浜崖頂部高の低下が発生します

●長期的な地形変化

- ◇宮崎海岸(直轄区間)では年間 20～30 万 m³/年の海浜土砂量が減少しています
- ◇その地形変化は、主に水深 10m～12m より浅い範囲で生じています

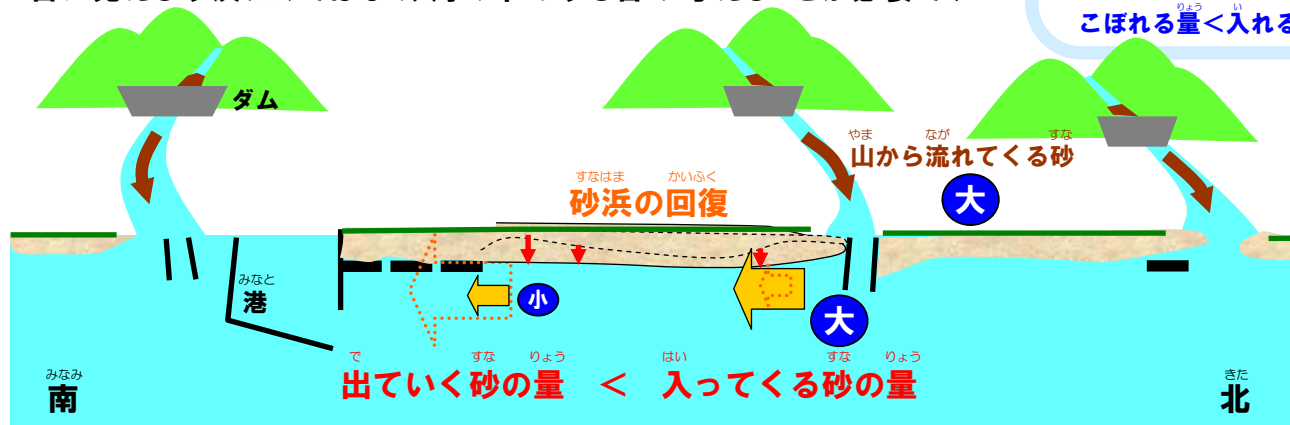
●短期的な地形変化

- ◇自然の砂浜が残る区間では、長期的な地形変化による砂浜の減少により浜崖基部に波が当たるようになり、砂丘が削られることで浜崖頂部高の低下が発生しています

なくなった砂浜を回復するために考えられることは？

砂浜を回復するには、
「宮崎海岸に入ってくる砂の量を増やすこと」「宮崎海岸から出ていく砂の量を減らすこと」が必要です

※目に見える砂浜だけではなく、海の中の砂も含め考えることが必要です



考えられることは、例えば・・・

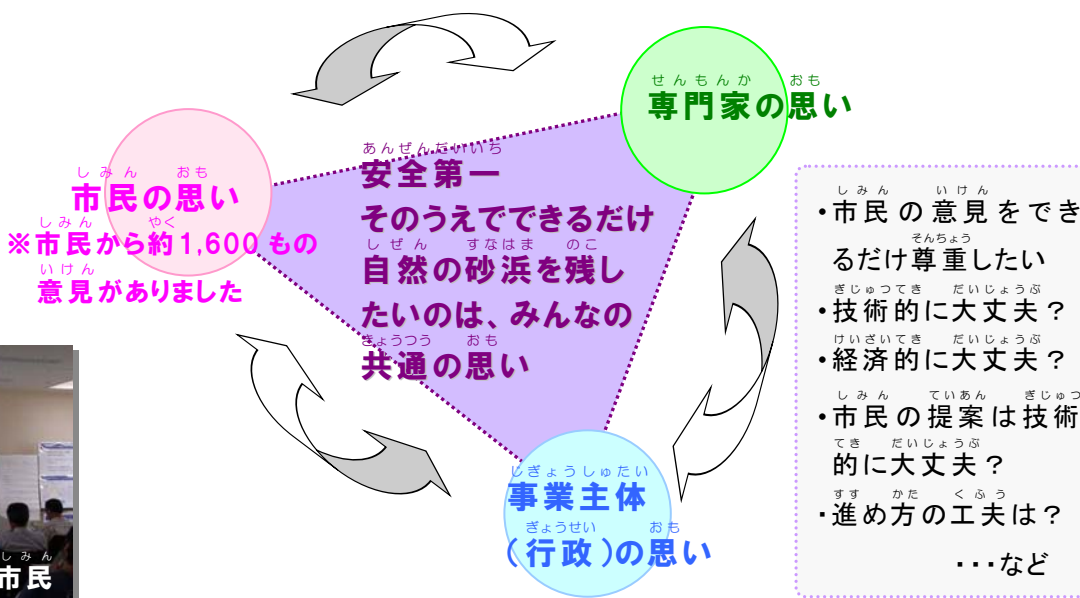
- ◇北からの砂をどんどん増やす
- ◇南に出る砂を完全に止める
- ◇砂を増やさず岸だけ守れば？
- ◇ダムや港などの施設をなくす

※砂だけをどんどん入れたり、砂を完全に止める巨大な施設をつくったのでは、お金がいくらあっても足りません
※手当てをする場所や量などもうまくバランスをとらないと、副作用が出る危険性があります
※護岸などで岸の一部だけ手当てしても砂はもどらないため、護岸などの土台である砂が波でどんどん流され、護岸などを支えきれなくなってしまう
※ダムや港などは国民の暮らしを支えており、海岸のためだけになくすことはできません

つまり、いろいろな視点からバランスのとれた方法を考えなくてははいけません

なくなった砂浜を回復するため、いろいろな人の思いがあります

市民談義所の様子



市民意見と各種調査・技術的検討

市民意見や各種調査・技術検討結果を踏まえて考えました

▼対策に対する市民意見(抜粋)

市民談義所等では、対策の早期実施、構造物設置の反対、自然環境の保全等のさまざまな意見がありました。

安全	・早急に対策を実施して欲しい、台風による浸水が心配 ・構造物を入れて欲しい または 早急に砂浜を復元して欲しい ・安全確保、生命・財産の優先を第一に考えて欲しい ・市民提案工法を採用(試験施工含め)して欲しい
自然環境保全・利用	・自然の浜を残して(取り戻して)欲しい ・持続可能な対策を実施して欲しい(ビーチサイクルを考慮など) ・アカウミガメ、コアジサシ等の生物環境に配慮して欲しい ・コンクリート構造物(護岸、ヘッドランド等)を造らないで欲しい ・漁業、サーフィンなどの利用ができなくなる対策には反対
その他(連携等)	・行政機関が連携して取り組むべき(河川、ダム、港湾、保安林など) ・ダム、港湾、保安林、導流堤を撤去して欲しい ・セットバックについて議論して欲しい ・住民、サーファー、研究者、行政が知恵を出し合って話をする円卓会議が欲しい

▼各種調査・技術的検討

調査
・測量(海の中や陸の地形を調べる) ・波や流れの観測 ・漂砂トレーサー調査(砂の動きを調べる) ・環境調査(生物等を調べる) ・アカウミガメ調査 ・海岸利用調査 - など



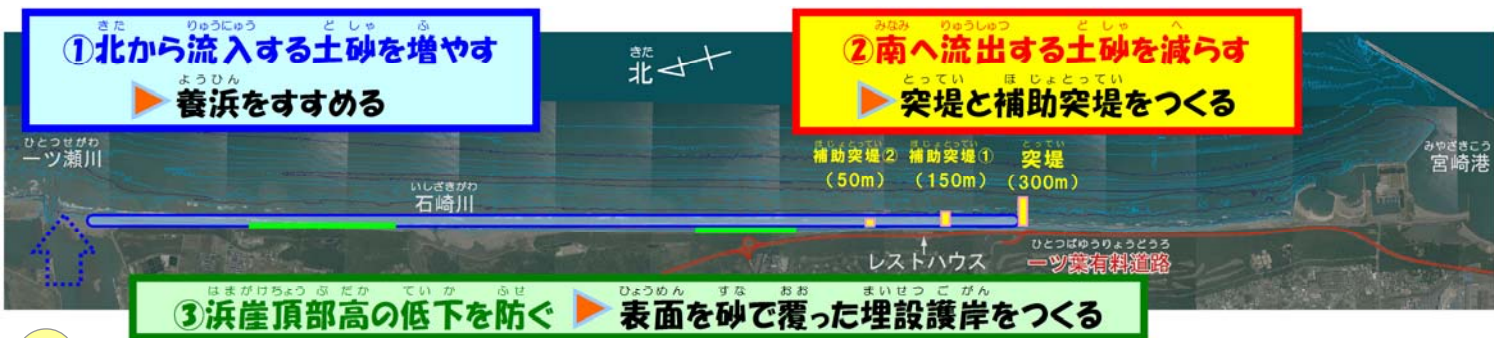
試験養浜
・水の濁りや砂の固まり具合など ・養浜した砂の動き

調査・試験養浜でわかったこと

- ・長期的・広域的な砂の流れは南向き
- ・砂は水深約 10~12m より浅い所で移動
- ・なくなった砂の量は約 25 万 m³/年 (一ツ瀬川~住吉海岸)
- ・港にたまった砂の量は約 22 万 m³/年 (宮崎港周辺)
- ・一ツ瀬川より北からの砂の流れは減っている
- ・動物園東や大炊田で、砂丘が削られて浜崖頂部高の低下が発生
- ・海の中の地形、砂の状況、生物、波や流れ、利用状況などの場所ごとの特徴
- ・生物や水の濁りに対する養浜の影響
- ・アカウミガメの産卵や、利用、環境、景観のことも考えた養浜の方法
- ・砂粒の大きさに応じた養浜砂の動き

いろいろな人の思いや技術的な検討の結果を踏まえ、 砂浜を回復するための対策をみんなで考えました

対策の目標：砂浜を回復し浜幅50mを確保する



※①・②の対策を行い浜幅50mを確保することで、波が砂丘を越えなくなり、家やまちに海水が流れ込むのを防ぎます
※①・②の対策で波は砂丘を越えなくなりますが、浜崖の根元には直接波が当たるため、③の対策もあわせて行います
※①は、一ツ瀬川の北側や川からの砂を増やす将来の方法もあわせて考えていきます(ただし、時間がかかります)

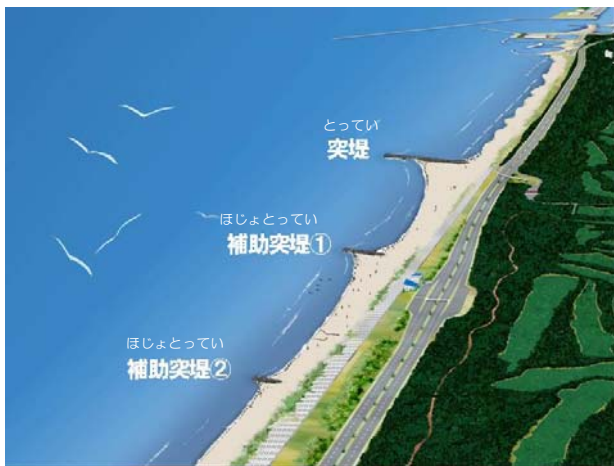
？ 養浜ってなに？

海岸に人工的に砂を入れることで、砂浜を養うこと。陸からまたは海からなど工事の方法はいろいろあります



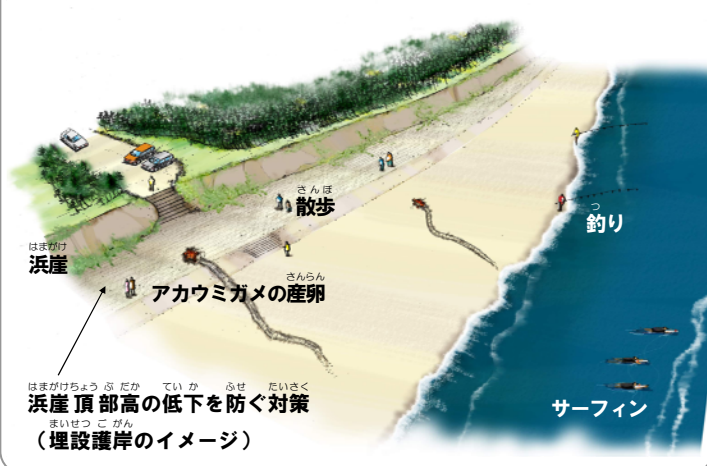
？ 突堤ってなに？

陸から海に向けて細長く伸びる堤防のこと
海岸線に沿って動く砂を止めることができます



？ 埋設護岸ってなに？

浜崖の根元を波から守りながら、環境・景観・利用のことも考え表面を砂で覆った護岸



宮崎海岸保全の基本方針、宮崎海岸の侵食対策

▼宮崎海岸保全の基本方針

●目的

◇海岸の環境や利用と調和を図りつつ、海岸侵食に脅かされる海岸背後地の人々の安全・安心を確保するとともに、国土を保全します

●目標

◇「背後地(人家、有料道路等)への越波被害を防止すること」を防護目標とし、そのために必要な「浜幅50mの確保」を達成することを目指します
◇現況汀線位置が浜幅50m以上である区域については、流砂系も含めた対策により、その保全・維持を目指します

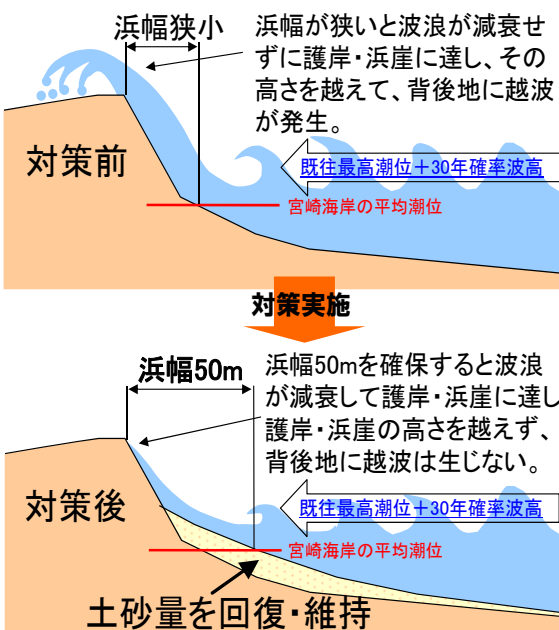
●考え方

◇北からの流入土砂を増やすこと(左図①)、南への流出土砂を減らすこと(左図②)により、これまでに失われた宮崎海岸の土砂量を回復・維持し、砂浜を回復・維持します
◇急激な侵食の危険性がある区域において、浜崖頂部高の低下を防ぎます(左図③)

●配慮事項

◇新たに設置するコンクリート構造物は出来るだけ減らします
◇それぞれの区域の特徴に応じたものとします
◇豊かな自然環境を最大限残します
◇美しい景観、漁業・サーフィン・散歩等の利用に配慮します
◇(直轄)工事完了後も維持管理に過剰な負担がかからないようにします
◇山、川、海における土砂の流れに出来るだけ連続性をもたせ、将来は自然の力による砂浜の回復・維持を目指して、様々な取り組みを行っていきます
ただし、その取り組みは時間がかかることから、当面は他事業とも連携した養浜を積極的に実施していきます

浜幅50m確保による防護イメージ



▼宮崎海岸の侵食対策

▼養浜の位置と方法

- ① 砂の動き(北→南)や養浜の利点(機動・柔軟的な対応可能)を考慮し、北側(大炊田海岸周辺)や侵食の著しい箇所で実施します
試験養浜結果を踏まえ、陸上養浜・海中養浜を関係機関との連携により実施します

▼突堤・補助突堤の配置と規模

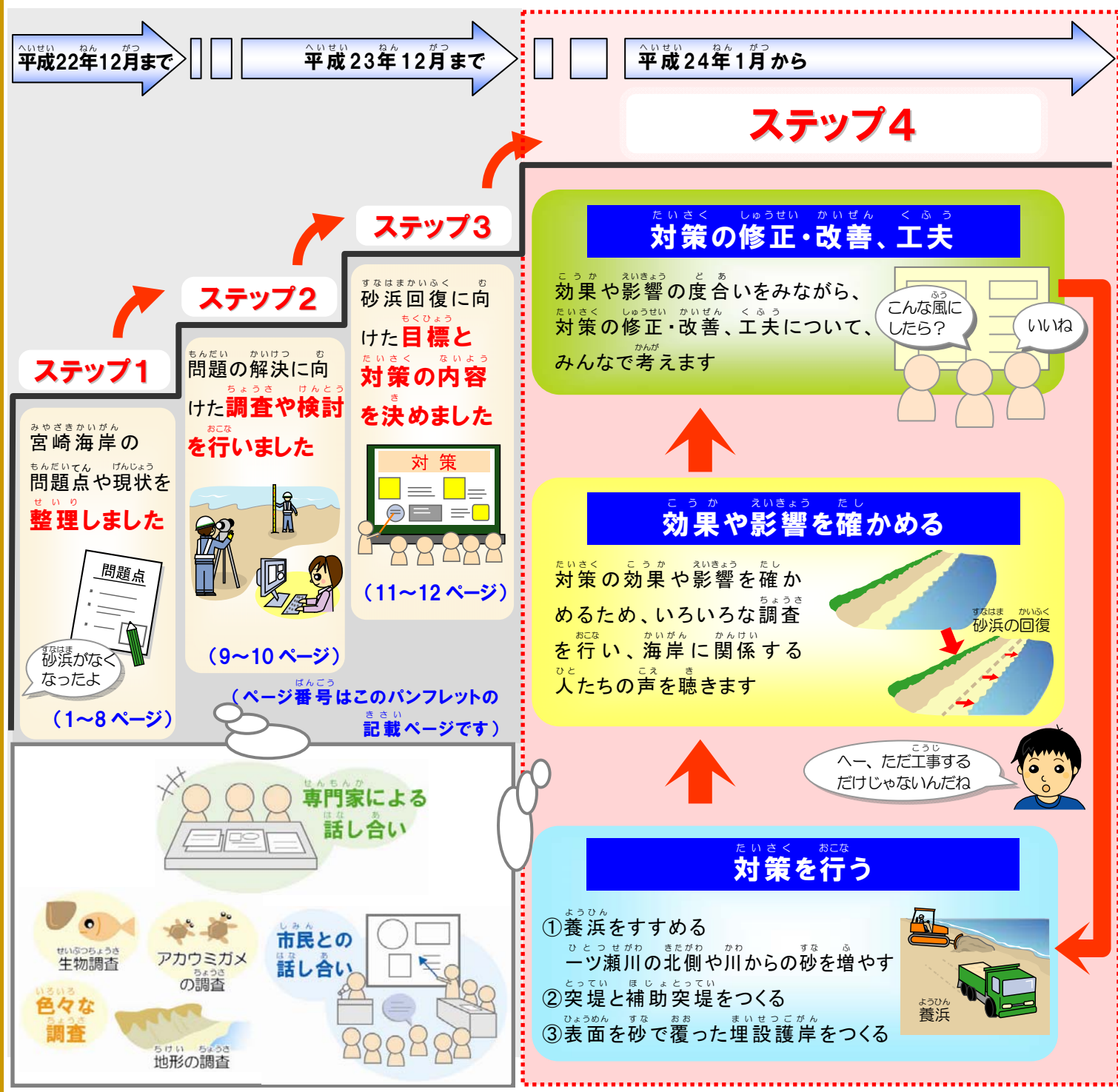
- ② 砂の動き(北→南)、一ツ葉パーキングエリア(レストハウス)前の砂浜消失状況、離岸堤の設置状況を考慮し、住吉海岸離岸堤の北側に配置します
突堤は、砂の動きの激しい水深約5mより浅い範囲を目安に、岸から300mの規模とします
補助突堤は、岸から150m、50m(南側より)の規模とします

▼埋設護岸の対策の位置と規模

- ③ 自然浜区間の浜崖頂部高の低下が懸念される箇所(動物園東および大炊田海岸など)で実施します
当面は暫定天端高(海拔(T.P.)+5.5m)で施工し、モニタリング等を実施することで、完成形として必要な天端高を決定します

対策を実施し、その効果や影響を確かめつつ、 修正・改善、工夫を行いながら砂浜の回復を目指します

この侵食対策は計画を立て、工事を行い、構造物を造りあげることがゴールではありません。対策の効果・影響を確かめながら、徐々に、でも着実に整備を進め、砂浜の回復を目指す、宮崎海岸ならではの取り組みです。



ステップ4 ～対策の実施と効果検証～

▼効果検証の手順

効果検証の手順のうち『C:確認』については「効果検証分科会」で検討します。また、『A:修正』『P:計画』については「技術分科会」で検討します。

効果検証の手順

Check (確認): 侵食対策の効果・影響の確認

計画変更につながる可能性がある現象を抽出し、それを確認する指標や必要な調査を検討して調査実施計画にまとめます。その計画に基づく調査結果を分析・評価し、対策の効果を検証します。

《計画諸元※の変更につながる可能性がある現象の抽出》

例: 汀線の前進が予想以上に速い(または遅い)

※ 諸元: 計画検討の前提条件や、対策工(養浜、突堤、埋設護岸)の諸元

Do (実行): 工事の実施

《抽出した現象を確認していくための指標※の設定》

例: 場所ごとの状況を把握するため、宮崎海岸を適当な範囲に区切り、汀線の前進度合いを把握する (単位: m)

※指標: これまで宮崎海岸で収集・蓄積した基礎資料、実施した調査等から得られた既往の知見、把握した特性、推定された傾向をもとに設定

Plan (計画): 侵食対策の計画

《設定した指標を把握できる調査方法※の検討》

例: 全体・長期的な傾向は地形測量、空中写真撮影で把握する
部分・短期的な傾向は定点カメラ観測で把握する など

※調査方法: 手法・範囲・地点・頻度・時期 …効率性を踏まえて絞り込み

Act (修正): 対策の修正・改善、工夫

《調査実施計画策定》

例: 全体・長期的な調査は宮崎海岸全域で年 1～2 回実施する
部分・短期的な調査は 7 箇所毎日観測を実施する など

「技術分科会」の検討範囲

《調査実施計画に基づく調査の実施》

例: 計画に基づき、地形測量・空中写真撮影・定点カメラ観測を実施する

《調査結果を分析・評価し対策の効果を検証》

例: 予測結果と測量結果を対比し、場所ごとの汀線の前進速度を分析・評価し、対策の効果を検証する

「効果検証分科会」の検討範囲

対策の進め方 ～みんなで協力し、海の中の様子を見ながら進めます～

関係する人々との協力のあり方

・砂浜の回復を目指し、行政・市民・専門家が一緒になって対策を進めています

これを、
「宮崎海岸トライアングル」と名付けました

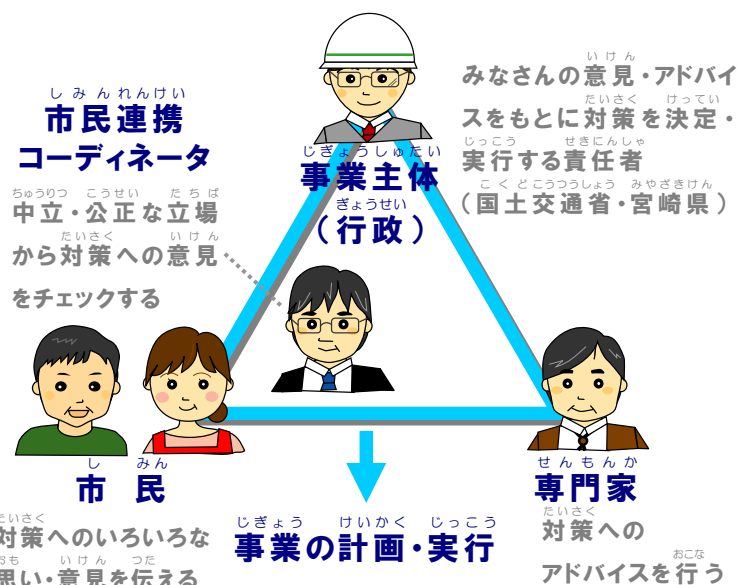
計画から実行の流れ

・海の中で何が起きているか、よくわからないことも多いため、対策中も海の中の様子を確認し、必要があれば計画の見直しを行いながら、対策を進めています

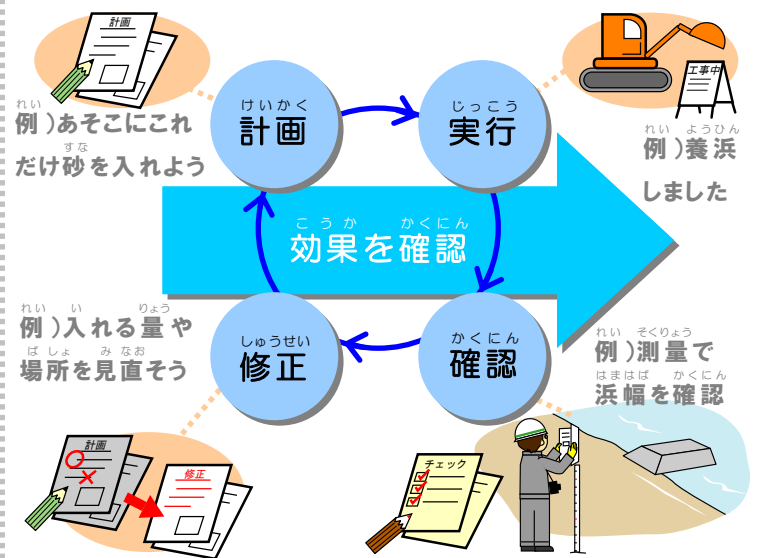
これを、
「宮崎海岸
ステップアップサイクル」と名付けました

対策は、これまでも、そしてこれからも
「トライアングル」と「ステップアップサイクル」の2本の柱で進めていきます

宮崎海岸での取り組み



宮崎海岸での取り組み



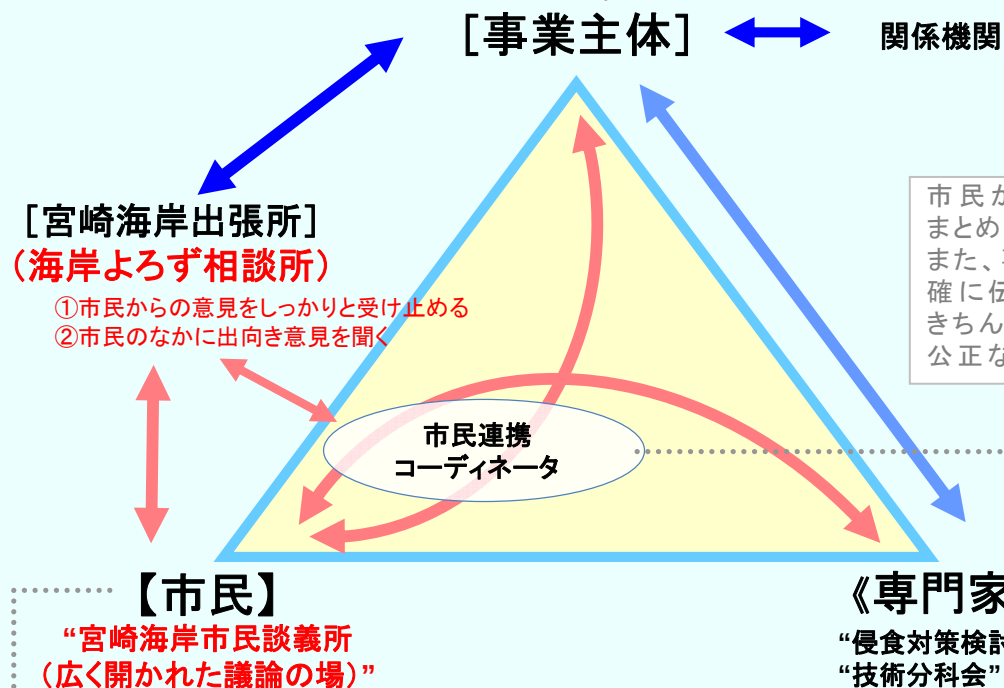
侵食対策の2本の柱

「宮崎海岸トライアングル」、「宮崎海岸ステップアップサイクル」

▼宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸の砂浜の保全を目的として、行政・市民・専門家が三者一体となって進めています。

市民からの多様な意見を反映した案(複数)を専門家に提示し、検討を依頼する。また、専門家からの助言をもとに、責任ある意思決定をする

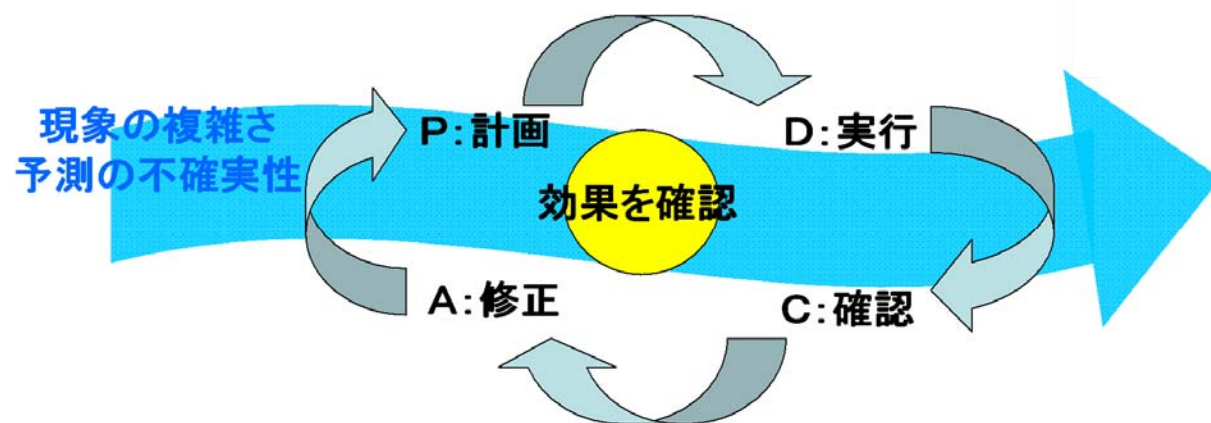


お互いを理解・尊重しながら多様な意見を出し合い議論を深める

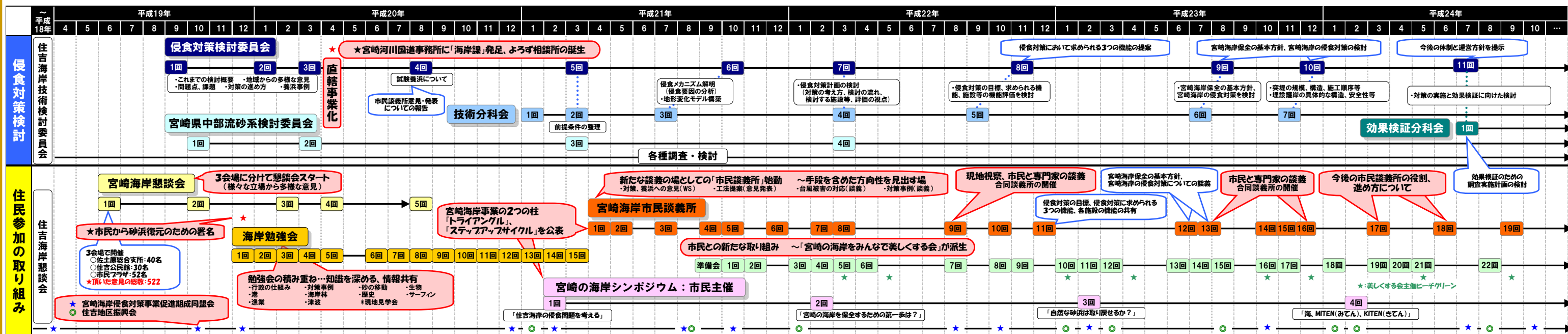
事業主体からの案に対して、事業主体に技術的・専門的な立場から助言する

▼宮崎海岸ステップアップサイクル

自然現象の複雑さと社会環境・自然環境の変化に対する未来予測の不確実性を踏まえ、どのような方法をとればよいかを検討・実施し、その方法の効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進めています。

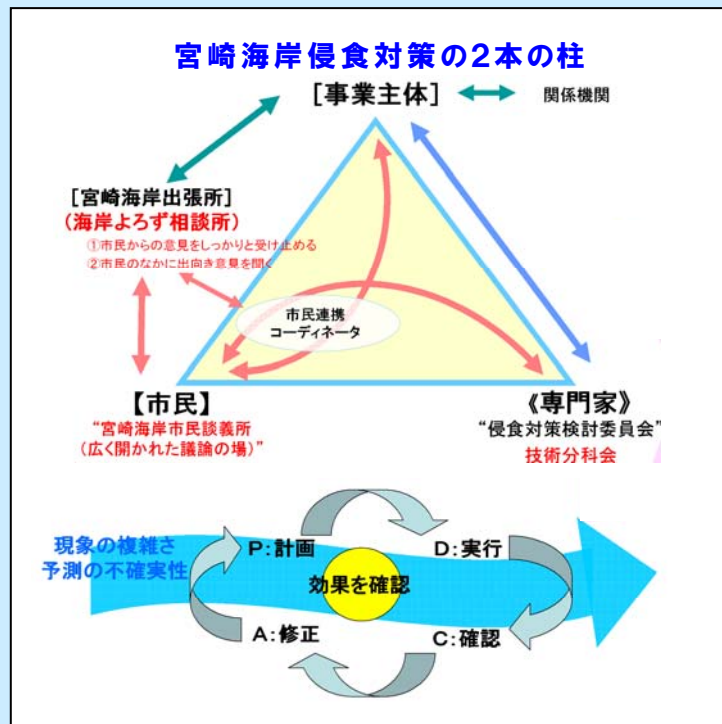


宮崎海岸のこれまでの取り組み(宮崎海岸トライアングルが 積み上げてきたもの)



宮崎海岸侵食対策の2本の柱 〔平成 21 年 1 月～3 月〕

- 平成 21 年 1 月 24 日 第 13 回 海岸勉強会 で紹介
- 平成 21 年 3 月 11 日 第 5 回 委員会 で了承
- 平成 21 年 2 月 1 日 宮崎の海岸シンポジウム
〔市民主催〕で紹介



侵食対策の目標、対策に 求められる3つの機能 〔平成 22 年 8 月～11 月〕

- 平成 22 年 8 月 22 日 第 9 回 談義所 で機能を紹介
- 平成 22 年 10 月 19 日 第 10 回 談義所 で目標を紹介
- 平成 22 年 11 月 4 日 第 8 回 委員会 で了承



宮崎海岸保全の基本方針 宮崎海岸の侵食対策 〔平成 23 年 7 月～12 月〕

- 〔基本方針、侵食対策メニューの検討・決定〕
- 平成 23 年 7 月 10 日 第 12 回 談義所 で(案)を紹介
- 平成 23 年 7 月 17 日 第 6 回 技術分科会 で検討
- 平成 23 年 7 月 17 日 第 13 回 談義所 で以下の3点を確認

今回提示された案が、市民、専門家、行政が一体となって検討されてきた案であるということ
 今回提示された案の成り立ち
 今後も市民、専門家、行政が一体となって施設の素材や形状の検討を行っていくこと、また、対策の効果・影響を現地で確認し、修正・改善を加えながら事業をすすめていくこと

- 平成 23 年 8 月 22 日 第 9 回 委員会 の了承を受け
機能①:養浜
機能②:突堤
機能③:埋設護岸
による整備を事業主体が決定
- 〔侵食対策の検討・決定(規模・構造・素材等含む)〕
- 平成 23 年 11 月 13 日 第 15 回 談義所 で配慮事項の談義
- 平成 23 年 11 月 21 日 第 7 回 技術分科会 で検討
- 平成 23 年 11 月 21 日 第 16 回 談義所 で市民・専門家の意見交換
- 平成 23 年 12 月 13 日 第 10 回 委員会 の了承を受け
宮崎海岸保全の基本方針、宮崎海岸の侵食対策を
事業主体が決定

宮崎海岸のこれまでの取り組み(市民とのあゆみ)

「懇談会」ではワークショップにより
広く市民の意見を頂きました



住吉

市民
プラザ



佐土原



第1回懇談会
(平成19年6月)

宮崎海岸侵食対策事業促進期成同盟会は、
平成19年2月に発足し、侵食対策事業の促進
に向けて活動しています



宮崎海岸侵食対策事業促進期成同盟会要望
(平成19年2月～)

「勉強会」は毎回市民がテーマを決め、
行政担当部署や専門の方を招き行いました



海岸勉強会
(平成20年4月)



海岸勉強会:現地見学
(平成20年10月)

市民主催の
シンポジウム・勉強会に、
国土交通省も参加しています



第20回日本ウミガメ会議
(平成21年11月)



宮崎の海岸シンポジウム
(平成21年2月)

地域との連携に向け、情報発信・情報共有など、
様々な取り組みを行っています



海岸よろず相談所
(「ご意見投稿用紙」などで意見を収集)



「海岸よろず相談所だより」
の発行

「懇談会」や「勉強会」を経て
新たな談義の場として
「市民談義所」が始動しました



市民連携コーディネーターによる解説

第1回市民談義所
(平成21年4月)

宮崎海岸の侵食対策について
みんなで現地を歩いたり、
専門家を交えて談義しました



第9回市民談義所
(平成22年8月)



分科会委員からの解説

第13回市民談義所
(平成23年7月)



侵食対策(案)について意見を述べる市民

第12回市民談義所
(平成23年7月)

市民の意見を専門家が共有しています



意見を航空写真に貼り付ける市民
(市民談義所)



市民の意見を確認する委員
(技術分科会)

市民によるマナー作りの場として
「宮崎の海岸をみんなで美しくする会」が
市民談義所から派生しました



第2回石崎浜ビーチクリーン
(平成22年5月)



海岸よろず相談所
(出前講座や来所者説明)



サンドバック現地見学会の開催
(平成24年3月)



海岸利用のマナー向上の
ための看板設置
(平成23年3月)

